

沼津工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	応用物理
科目基礎情報						
科目番号	2019-430			科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	制御情報工学科			対象学年	4	
開設期	通年			週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	前期はテキスト配布。後期は初歩から学ぶ基礎物理学「熱・波動」(2年物理で使用した教科書)の熱の部分を使用。					
担当教員	駒 佳明,設楽 恭平					
到達目標						
1. 実験を正確に行い、データを正しく解析し、結果を適切な有効数字で、かつ、グラフを用いて表現することができる。 2. 実験結果およびその背景にある物理現象について正しく理解し、関連する諸量を計算できる。 3. 熱力学の基礎を理解し、代表的な熱現象に関して熱力学第1・第2法則および関連法則を用いて熱力学的諸量を見積ることができる。(B1-3)						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1		□正しい手順で実験を行い、正確なデータを得ることができる。 □複雑な解析を行った場合でも、正しい有効数字で結果を表現できる。 □実験の解析結果についてその背景を考察することができる。 □実験データおよびそこから得た結論を適切にグラフを用いて表現することができる。		□実験指導書に従い、正しい手順で実験を行うことができる。 □実験データを正しい有効数字で表現できる。 □実験データを、実験指導書に従って正しく解析し、結論を導くことができる。 □実験データを適切にグラフに表現することができる。		□実験指導書に従い、正しい手順で実験を行うことができない。 □実験データを正しい有効数字で表現できない。 □実験データを、実験指導書に従って正しく解析できない。 □実験データを適切にグラフに表現することができない。
評価項目2		□実験を行った物理現象について正しく説明でき、応用的な事例について関連する諸量の計算ができる。		□実験を行った物理現象について正しく説明でき、関連する諸量の計算ができる。		□実験を行った物理現象について正しく説明できない。
評価項目3(B1-3)		□相変化を伴う複雑な過程に関して熱の出入りの計算ができる。 □理想気体のさまざまな状態変化に対して熱力学第1法則を用いた計算ができる。 □具体的な熱過程に対してエントロピー変化を計算できる。		□熱容量に関する具体的計算ができる。 □熱力学第1法則を用いた計算ができる。 □熱力学第2法則を説明でき、エントロピー変化の計算ができる。		□熱容量に関する計算ができない。 □熱力学第1法則を用いた計算ができない。 □熱力学第2法則を説明できない。
学科の到達目標項目との関係						
実践指針 (B1) 実践指針のレベル (B1-3)【本校学習・教育目標 (本科のみ)】 2【プログラム学習・教育目標】 B						
教育方法等						
概要		前期は、1～3年で履修した物理I、物理IIおよび工業力学を応用して、重要な物理現象のいくつかを講義と実験の両面から学ぶ。同時に、実験データの解析や誤差の扱いについても学ぶ。後期は熱力学の基礎的な知識および、熱力学第1法則と第2法則を学ぶ。本講義を通して、物理の基礎知識を自らの工学分野に応用できることに加え、自らの専門分野の課題の解決に数学的手法を適用できることを学ぶ。				
授業の進め方・方法		前期は、理論と実験を交互に学ぶ。物理法則を単に覚えるだけでなく、実際に物理現象を体感し、測定し、データ解析することにより、実験作法を身に着けるとともに、物理法則の理解を深めるのがねらいである。後期は、熱に関する基礎的な事項を講義により学ぶ。ステップごとに演習問題が出題されるので、問題を解きながら理解を深める。				
注意点		前期は、講義の回も実験の回もともに物理実験室で行う。実験室用の上履きを持参すること(体育館シューズでよい)。前期は到達度確認テスト1と実験レポートで評価する。後期は到達度確認テスト2、到達度確認テスト3で評価する。授業目標3(B1-3)が標準到達基準(満点の60%)以上で、かつ前後期の評価点が60点以上の場合に合格とする。評価基準はルーブリックによる。評価については、評価割合に従って行う。ただし、適宜再試や追加課題を課し、加点することがある。この科目は学修単位科目であり、1単位あたり30時間の対面授業を実施する。併せて1単位あたり15時間の事前学習・事後学習が必要となる。				
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス (安全な実験、振動の復習)		安全に実験することについて理解できる	
		2週	振動		強制振動と共振の実験と解析ができる	
		3週	誤差と有効数字 1		誤差と有効数字の概念を理解できる	
		4週	誤差と有効数字 2		ノギスとマイクロメータを使った測定を通して、結果を適切な有効数字で表現できる	
		5週	光の回折		光の回折(講義)とレーザー光を用いた回折の基礎実験を行い、光の回折について正しく理解できる	
		6週	応用物理実験解説 1		電気現象を電子の運動として理解できる	
		7週	応用物理実験解説 2		光の粒子性とプランク定数の関係を理解できる	
		8週	到達度確認テスト 1			
	2ndQ	9週	応用物理実験 1		光電効果に関する実験を行い、プランク定数を求めることができる	
		10週	応用物理実験2		水素原子のスペクトルを観測する実験を遂行し、プランク定数を正しく求めることができる	
		11週	放射線		放射線に関する基礎的な事項を理解できる	
		12週	応用物理実験 3		ローレンツ力による電子の等速円運動の実験を遂行し、その測定から電子の比電荷を求めることができる	
		13週	応用物理実験 4		温度を変化させながら電気抵抗を測定する実験を遂行し、その結果から電気抵抗の温度係数を求めることができる	

後期		14週	応用物理実験 5	近現代物理学に関連する実験を遂行し、それらの物理現象を正しく理解できる
		15週	実験のまとめ	
		16週		
	3rdQ	1週	熱エネルギー (1)	熱運動と温度の関係を正しく理解できる
		2週	熱エネルギー (2)	熱容量・熱量保存則・潜熱を正しく理解できる
		3週	熱エネルギー (3)	熱膨張と熱の伝達を正しく理解できる
		4週	気体 (1)	理想気体の状態方程式を理解し、これを用いて気体の熱的な諸量を計算できる
		5週	気体 (2)	気体の分子運動論を理解できる
		6週	気体 (3)	気体のする仕事を理解し、定量的に扱うことができる
		7週	気体 (4)	気体の状態変化を理解し、定量的に扱うことができる
		8週	到達度確認テスト 2	
	4thQ	9週	熱力学 (1)	熱力学第 1 法則を理解し、内部エネルギーを計算できる
		10週	熱力学 (2)	気体の定積熱容量と定圧熱容量の違いを理解し、それぞれの計算ができる
		11週	熱力学 (3)	気体の状態変化に対して熱力学第 1 法則を適用して、熱的諸量を計算することができる
		12週	熱力学 (4)	熱機関について基本的概念を理解し、熱機関の効率およびエアコンの成績係数を計算することができる
		13週	熱力学 (5)	熱力学第 2 法則を理解し、エントロピーを計算することができる
		14週	到達度確認テスト 3	
		15週	熱力学のまとめ	応用例を挙げることができる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。	3	
				因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	3	
				分数式の加減乗除の計算ができる。	3	
				実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。	3	
				平方根の基本的な計算ができる(分母の有理化も含む)。	3	
				複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。	3	
				解の公式等を利用して、2次方程式を解くことができる。	3	
				因数定理等を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。	3	
				簡単な連立方程式を解くことができる。	3	
				無理方程式・分数方程式を解くことができる。	3	
				1次不等式や2次不等式を解くことができる。	3	
				恒等式と方程式の違いを区別できる。	3	
				2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。	3	
				分数関数や無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
				簡単な場合について、関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。	3	
				累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。	3	
				指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
				指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	
				対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる。	3	
				対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
				対数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	
				角を弧度法で表現することができる。	3	
				三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
				加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	3	
				三角関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	
				三角比を理解し、簡単な場合について、三角比を求めることができる。	3	
				一般角の三角関数の値を求めることができる。	3	
				2点間の距離を求めることができる。	3	
				積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合の数を数えることができる。	3	
				簡単な場合について、順列と組合せの計算ができる。	3	
				等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。	3	

			総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。	3	
			不定形を含むいろいろな数列の極限を求めることができる。	3	
			無限等比級数等の簡単な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	3	
			ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。	3	
			平面および空間ベクトルの成分表示ができ、成分表示を利用して簡単な計算ができる。	3	
			平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。	3	
			問題を解くために、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。	3	
			空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる(必要に応じてベクトル方程式も扱う)。	3	
			簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	3	
			微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。	3	
			積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めることができる。	3	
			合成関数の導関数を求めることができる。	3	
			三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	3	
			逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求めることができる。	3	
			関数の増減表を書いて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	3	
			極値を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。	3	
			簡単な場合について、関数の接線の方程式を求めることができる。	3	
			2次の導関数を利用して、グラフの凹凸を調べることができる。	3	
			関数の媒介変数表示を理解し、媒介変数を利用して、その導関数を求めることができる。	3	
			不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求めることができる。	3	
			置換積分および部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。	3	
			定積分の定義と微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。	3	
			分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分を求めることができる。	3	
			簡単な場合について、曲線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる。	3	
			簡単な場合について、曲線の長さを定積分で求めることができる。	3	
			簡単な場合について、立体の体積を定積分で求めることができる。	3	
			2変数関数の定義域を理解し、不等式やグラフで表すことができる。	3	前3
			合成関数の偏微分法を利用して、偏導関数を求めることができる。	3	前3
			簡単な関数について、2次までの偏導関数を求めることができる。	3	前3
			偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。	3	前3
			2重積分の定義を理解し、簡単な2重積分を累次積分に直して求めることができる。	3	
			極座標に変換することによって2重積分を求めることができる。	3	
			2重積分を用いて、簡単な立体の体積を求めることができる。	3	
			微分方程式の意味を理解し、簡単な変数分離形の微分方程式を解くことができる。	3	前2
			簡単な1階線形微分方程式を解くことができる。	3	前2
			定数係数2階斉次線形微分方程式を解くことができる。	3	前2
			独立試行の確率、余事象の確率、確率の加法定理、排反事象の確率を理解し、簡単な場合について、確率を求めることができる。	3	
			条件付き確率、確率の乗法定理、独立事象の確率を理解し、簡単な場合について確率を求めることができる。	3	
			1次元のデータを整理して、平均・分散・標準偏差を求めることができる。	3	前3
			2次元のデータを整理して散布図を作成し、相関係数・回帰直線を求めることができる。	3	前3
			簡単な1変数関数の局所的な1次近似式を求めることができる。	3	
			1変数関数のテイラー展開を理解し、基本的な関数のマクローリン展開を求めることができる。	3	
			オイラーの公式を用いて、複素数変数の指数関数の簡単な計算ができる。	3	
自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	3	前2

				直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3	前2
				等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3	前2
				平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	前2
				物体の変位、速度、加速度を微分・積分を用いて相互に計算することができる。	3	前2
				平均の速度、平均の加速度を計算することができる。	3	前2
				自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	前2
				水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	前2
				物体に作用する力を図示することができる。	3	前2
				力の合成と分解をすることができる。	3	前2
				重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	3	前2
				フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	3	前2
				質点にはたらく力のつりあいの問題を解くことができる。	3	前2
				慣性の法則について説明できる。	3	前2
				作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	3	前2
				運動方程式を用いた計算ができる。	3	前2
				簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。	3	前2
				運動の法則について説明できる。	3	前2
				静止摩擦力がはたしている場合の力のつりあいについて説明できる。	3	前2
				最大摩擦力に関する計算ができる。	3	前2
				動摩擦力に関する計算ができる。	3	前2
				仕事と仕事率に関する計算ができる。	3	前2
				物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3	前2
				重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	前2
				弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	前2
				力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	前2
				物体の質量と速度から運動量を求めることができる。	3	前2
				運動量の差が力積に等しいことを利用して、様々な物理量の計算ができる。	3	前2
				運動量保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	前2
				周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。	3	前2
				単振動における変位、速度、加速度、力の関係を説明できる。	3	前2
				等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する計算ができる。	3	前2
				万有引力の法則から物体間にはたらく万有引力を求めることができる。	3	前14
				万有引力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	前14
				力のモーメントを求めることができる。	3	前2
				角運動量を求めることができる。	3	前2
				角運動量保存則について具体的な例を挙げて説明できる。	3	前2
				剛体における力のつり合いに関する計算ができる。	3	前2
				重心に関する計算ができる。	3	前2
				一様な棒などの簡単な形状に対する慣性モーメントを求めることができる。	3	前2
				剛体の回転運動について、回転の運動方程式を立てて解くことができる。	3	前2
			熱	原子や分子の熱運動と絶対温度との関連について説明できる。	3	後1
				時間の推移とともに、熱の移動によって熱平衡状態に達することを説明できる。	3	後1
				物体の熱容量と比熱を用いた計算ができる。	3	後2
				熱量の保存則を表す式を立て、熱容量や比熱を求めることができる。	3	後2
				動摩擦力がする仕事は、一般に熱となることを説明できる。	3	後1
				ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式を用いて、気体の圧力、温度、体積に関する計算ができる。	3	後4
				気体の内部エネルギーについて説明できる。	3	後5,後9,後10,後11
				熱力学第一法則と定積変化・定圧変化・等温変化・断熱変化について説明できる。	3	後6,後7,後9,後10,後11
				エネルギーには多くの形態があり互いに変換できることを具体例を挙げて説明できる。	3	後9,後11
				不可逆変化について理解し、具体例を挙げることができる。	3	後13

			波動	熱機関の熱効率に関する計算ができる。	3	後12
				自然光と偏光の違いについて説明できる。	3	
				光の反射角、屈折角に関する計算ができる。	3	前5
				波長の違いによる分散現象によってスペクトルが生じることを説明できる。	3	前10
		物理実験	物理実験	測定機器などの取り扱い方を理解し、基本的な操作を行うことができる。	3	前1
				安全を確保して、実験を行うことができる。	3	前1
				実験報告書を決められた形式で作成できる。	3	前2,前3,前4,前5,前9,前10,前12,前13,前14
				有効数字を考慮して、データを集計することができる。	3	前2,前3,前4,前5,前9,前10,前12,前13,前14
				力学に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	前2
				熱に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	前6,前13
				波に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	前5,前7,前9,前10
				光に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	前5,前7,前9,前10
				電磁気に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	前6,前12,前13
				電子・原子に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	前6,前12

評価割合							
	前期実験レポート	到達度確認テスト1	到達度確認テスト2	到達度確認テスト3	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	25	25	25	25	0	0	100
基礎的能力	25	25	25	25	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0